

第1回次世代運行管理・支援システムについての検討会 議事概要

1. 日 時：平成26年10月31日（金）10：00～12：15
2. 場 所：国土交通省10階共用会議室A（合同庁舎3号館）
3. 出席者：永井委員、酒井委員、安宅委員、村松委員、野辺委員、川端委員、永嶋委員、山下委員、荻野委員、（オブザーバー：神田様）
4. 委員からの主な意見
 - 次世代デジタコの検討にあたっては、事業者による安全、省エネ、経営管理等の機能を備えた機器のニーズが多いことから、機器の要件を明確化する際、これらのニーズも踏まえて整理する必要があるのではないか。
 - 1つの営業所において複数メーカーのデジタコを使用する際、メーカー毎解析ソフトが必要となる。機器導入に係る費用の軽減化を図るため、機器メーカー毎のデータの共通化や標準解析ソフトの開発及び技術基準の簡素化を推進していただきたい。
 - 車両側に車両信号取得のための共通サービスコネクタの設置の可能性を検討して頂きたい。
 - 車両情報のインターフェースの標準化が必要。
 - 自動車メーカーとしても、ある共通部分の標準化（インターフェース）について開発していくことが課題であり、考えていくことが必要だと思う。
 - CANより車両情報を取得する場合、CANの脆弱化が問題。そのためには『ゲートウェイセキュリティ』を設けるべきではないか。
 - OBDから車両情報が取れば大いに活用できると思う。また、クラウドを使用したシステムをビジネスとする環境が構築されれば、発展するのではないか。
 - 次世代スマホであれば、精度が良くなり有用になる可能性があるのではないか。
 - 労務管理や健康管理の面でいかに安全性を高めていくかが課題。
 - デジタコと居眠り防止機器や追突防止機器との連携を推進して頂きたい。
 - 車両情報と運転者の健康状態を連携させ、営業所においてリアルタイムで把握できるシステムの構築を推進して頂きたい。
 - 協会からの意見を踏まえ、検討していくのが良いのではないか。
 - 検討体制については、カーメーカーやデジタコメーカー、周辺機器メーカーといった関係者を含めた体制が必要。
 - 11月に発足する安全運行サポーター協議会において、本検討と連携し国交省の協力を得ながら、健康起因に関わるデータの提供や機器の高度化等を実証的に実施していきたい。